

教育データの利活用の主な論点について

奈良県教育委員会 小崎誠二意見

教育データを利活用する目的をどう考えるべきか。また、どのような点を期待するか。

教育のデータは、その作成の経緯を考えると、学校及び教職員が管理することが前提になりますが、活用は、教員が指導に生かすにとどまらず、学習者本人の学びにも生かせるものであるべきだと考えます。

また、この活用が、学校教育にとどまらず、広く活用できる素地を作ることで、民間における教育も含めた教育活動への学習指導要領内容の浸透、さらには、インターネット環境や情報端末の文房具化など、社会や家庭の学習環境を支えるものとなってほしい。

教育データ利活用の具体的場面はどのようなものが考えられるか。

- ・学習指導計画の策定及び点検の場面
- ・学習指導内容の共有（オンライン等）の場面
- ・入学試験等を含む評価の場面
- ・教員養成及び研修等の教員の資質向上を図る場面

どのような教育データを共通で必要なものとして標準化すべきか。

カテゴリ化されている中での共有にとどまらず、教科横断、学校種横断、地域横断型で利用できるプラットフォーム型での活用が見込まれる教育データを標準化すべきだと考えます。

教育データの国際標準規格、文科省の標準、関連団体の標準の役割分担をどのように考えるべきか。

日本の教育の最大の強みは「横並び」ではないかと考えます。もちろん、それは最大の弱点でもあるわけですが、強みを生かすという視点で考えると、国際標準規格に対する言及については、学校教育に「実践」にとどまらない「研究」という意識が浸透することが必要で、かなりの整理と時間がかかるように感じます。文科省の標準は学習者の実態や学習内容に視点を置いたデータづくり、関連団体の標準はセキュリティも含めた管理の視点でのデータ形式、という考え方が一般的ではないかとだと思えます。

学習履歴（スタディ・ログ）等のデータを簡便に、継続的に蓄積するにはどのような方法で行うべきか。

1人1アカウント（ID）による個人と紐づいた管理で行うとよいと思えます。

学習履歴（スタディ・ログ）等のデータを個人情報保護の観点に配慮しつつ大規模に分析するためにはどのような方法で行うべきか。

校務系で扱う内容及び方法、学習系で扱う内容及び方法をそれぞれ整理し、必要な場面で必要な情報だけを結び付けるためのID連結・統合のルール及び仕組みを考えるとよいと思えます。

教育データの分析や得られた知見の共有等をどのように進めていくべきか。

調査によると、現在の教員は、先輩や同僚から得た情報と自らの経験値に頼ることが大半で、

他校との教員との情報共有を得意としていない傾向がみられます。教員にとっては、目の前の課題に対して、自分が必要な時に、自分なりに自由に扱える情報であることが重要であると思います。

教育データの利活用を図る上で考慮すべき留意点は何か。

教員の多忙な状況をみると、学ぶ機会があまりにも少ないと感じています。教育データを利活用するためには、それを必要だと感じることや、そのデータを活かす工夫を知ることなど、教員が学ぶ機会が大変重要です。データを介した交流の場を確保できるかどうかは利活用にも影響を与えたいと思います。